

令和7年度 農林水産省行政事業レビュー 公開プロセス

No.3 海岸事業（農地）

日時：令和7年6月19日（木）13:06～13:45

場所：中央合同庁舎第4号館 12階 1219～1221号会議室

（外部有識者）中村 圭 委員、藤栄 剛 委員、亀井 善太郎 委員、川澤 良子 委員

（事務局）藏谷 恵大 広報評価課長

（説明者）【農村振興局防災課】 石井 克欣 課長、鷲野 健二 課付、

鈴木 大地 課長補佐、西山 幸宏 係長

○藏谷広報評価課長 令和7年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセス午後の部を再開したいと思います。

3番目の「海岸事業（農地）」につきましては、藤栄委員、中村委員、亀井委員、川澤委員に議論に御参加いただくこととしております。藤栄委員については、ウェブ参加となります。

それでは、農村振興局防災課から事業について説明をお願いいたします。

○農村振興局防災課長（石井） 農村振興局防災課長の石井でございます。農地海岸事業について説明させていただきます。

まず最初に、資料の23ページをお願いしたいと思います。初めに、海岸事業について御説明いたします。

海岸事業は、津波、高潮、波浪、地震などから海岸や背後地を守り、国土保全に資することを目的としております。

海岸事業で整備する海岸保全施設には、堤防や護岸、水門などがございます。背後地への海水の浸入、侵食を防止する役割を果たしております。

続いて、24ページを御覧いただきたいと思います。

海岸保全区域は、漁港を所管する水産庁や港湾などを所管する国交省と連携して管理しております。農村振興局は一番左になりますが、農地海岸を所管しております。堤防などを整備し、干拓地などの農地、また背後地の住民の生命・財産、公共施設などを守っております。

続いて、1ページに移っていただきたいと思います。

1ページ左上に現状・課題がございます。我が国の海岸では、津波や高潮などによりまして多くの被害が発生することが懸念されております。このため、農地海岸事業では、海岸堤防などの嵩上げや耐震化、水門などの安全な閉鎖体制の確保、そして海岸堤防等の予防保全対策を

推進することとしております。

続いて、20ページに飛んでいただきたいと思います。農地海岸事業のロジックモデルを説明させていただきます。

まず一番左、対処すべき課題でございますが、上から気候変動の影響、大規模地震の発生リスク、施設の老朽化・劣化の三つになります。

その一つ右側、アクティビティでございますが、まずハード対策として、堤防などの嵩上げ、水門などの改修・統廃合などの津波・高潮対策。

次に、離岸堤、防波堤などの新設・改修などの侵食対策。

そして、堤防などの耐震化対策を、コスト縮減を図りながら推進しております。

次にソフト対策としまして、津波や高潮の浸水想定区域の指定、また、ハザードマップの作成・周知などを推進しております。

さらに、その下ですが、既存施設の機能診断、劣化予測、対策工法、実施時期の検討を行いまして、施設の長寿命化計画を策定しております。

また、ドローンなどの新技術を活用しながら、長寿命化計画に基づきまして、施設の補修・補強・更新といった老朽化対策を推進しております。

次に、その右側、アウトプットでございます。まず上の方ですが、津波、高潮、波浪による越水を防止又は軽減できる堤防高を確保いたします。

そして、必要な耐震性能を確保いたします。

また、水門などの操作員の安全を確保するとともに、操作や維持管理を省力化・効率化いたします。

その下になりますが、住民に災害時の避難経路や避難場所を周知いたします。

その下、さらに、老朽化による施設の機能低下を防止いたします。

次に、アウトカムでございます。ページの右側の方になります。

この一番右側でございますが、農地海岸事業の長期のアウトカムは、背後地の「営農の被害防止」、そして「地域住民、公共施設の被害防止」の二つになります。

青い部分ですが、短期アウトカムでございます。こちらはハード面とソフト面がございます。

まず、ハード面につきましては、「営農の被害防止」の観点で、越水による塩害防止、堤防等の決壊による農地への海水浸入防止、水門等からの農地への海水浸入防止などがございます。

また、「地域住民、公共施設への被害防止」の観点でも同様でございますが、越水や堤防等の決壊による背後地への海水の浸入防止、水門などから背後地への海水の浸入防止などがござ

います。

また、その下、ソフト面でございますが、施設の操作の安全性・効率性の向上、そして施設の更新・維持管理コストの縮減がございます。これらが合わさりまして「施設の操作・管理体制の持続化」につながるものと考えております。

この青い部分、上の方のハード面と下のソフト面の部分が合わさりまして、長期アウトカムの方につながるということでございます。

また、この青い部分、短期アウトカムの各項目のところに指標①、②などの指標を記載しております。左下でございますが、指標は四つございまして、各指標内容をこちらの方に記載しております。

この指標は、社会資本整備重点計画の海岸事業の指標でございます。海岸4省庁が連携して、この指標の目標達成に向けて海岸事業を推進しているところでございます。

長期アウトカムの方に戻りますが、右上、「営農の被害防止」の観点でございますが、災害発生後も「優良農地が確保される」。そして、「農業生産が維持され、農家経営が維持される」と考えております。

また、ピンクの部分ですが、「地域住民、公共施設への被害防止」の観点では、災害発生後も「地域コミュニティが維持される」、「地域の社会経済活動が維持される」と考えております。

最後にインパクトでございます。右下にあります、食料安全保障の確保、農業の持続的発展などの食料・農業・農村基本法の理念、また人命の保護、国民の財産、公共施設の被害の最小化といった国土強靱化基本計画の基本目標の実現につながるものと考えております。

以上、農地海岸事業のロジックモデルの説明でございます。御質疑のほど、よろしく願いいたします。

○藏谷広報評価課長 ありがとうございました。

本事業の論点としては二つございます。

一つ目、海岸事業（農地）において、既存の海岸保全施設の点検・診断結果に基づいて、施設の補修・補強の可否を判断し、既存施設の有効活用や長寿命化を図っていること、このことをロジックモデルの中で表現できないか。これが1点目でございます。

2点目は、海岸事業のロジックモデルを整理していくことで、どのような成果が得られたか。また、得られた成果について、今後、どのように事業に生かしていくのか。

こういった点が挙げられるかと思います。

それでは、委員の皆様から御発言をお願いできればと思います。御議論と並行して、委員の皆様には端末で御用意しておりますT e a m s のチャンネルにコメントを入力いただき、13時35分までに投稿ボタンのクリックをお願いします。

投稿ボタンのクリックの後にコメントを修正される場合はT e a m s のチャンネルで御連絡ください。

それでは、御発言のある委員におかれましては、挙手をお願いいたします。

亀井委員、お願いいたします。

○亀井委員 この間、いろいろと本当にありがとうございました。また今も御説明をありがとうございます。

20ページに書かれたロジックモデルが大変よく書けていて、これは実際に事前の勉強会でもお話を頂きましたけれども、改めてこれを作ったことでいろいろな気づきや学びがあったというようなお話があって、これは非常に良いなと思いました。

何が良いかというと、ややもすると施設整備は物の整備とか整備率ばかりがいつてしまうんですけども、これはもう正に海に関する様々な災害をより小さくするとかゼロにするということを目指したときには、物だけでは不十分で、人が必ず関わらなければいけない。さらには、その人が安全な状態に置かれることがとても大事で、ある意味、人の訓練とか、そういったところも皆さん、大変御腐心されているというところが多分この事業の一つポイントだと思います。

「物×（かける）人」というところまで意識されて短期アウトカムが記載されているというところが大変優れたところで、これは是非ほかの担当部局においても、あるいはこれはほかの省庁においても、特にこういう施設整備系の事業において本当に良い事例になるものではないかなというふうに思いました。

改めて今私が申し上げたところでもあるんですけども、実際に作ってみてどうだったか、これは論点②にも関わるところなんです、是非この辺りの御感想も含めて教えていただければと思います。

○農村振興局防災課長（石井） ありがとうございます。今回、このロジックモデルを作成する中で、アクティビティ、アウトプット、アウトカムを整理してまいりました。その中で、アクティビティからアウトカムに至るまでのプロセスというのが非常に見える化できてクリアになったということでございます。これが我々、個人、個人で認識できて、また担当者同士で共有できたということは非常に大きな価値だと考えております。

また、今委員がおっしゃられた、単に整備率を上げるだけではなくて、農地海岸事業には何が必要なのか、何が目的であって、そのために何が必要なのか。ハードだけではなくてソフト対策が必要であって、そうしたものが合わさって、このアウトカムにつながっていくということがよく認識できたということでございます。

そして、今後、私たちとしては、このロジックモデルの考え方については、単に我々、国の人間が共有するだけではなくて、地方農政局を通じて都道府県、また市町村の方にも、実際に海岸を管理されている皆様にも、また整備をされている皆様にもお伝えをしていきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

○亀井委員　ありがとうございます。最後におっしゃった点は本当に大事で、ああ、なるほど、国はこういうことを考えておるんだと。だから、私たちがどこができそうかなというふうにして、また現場の方々が参加できるようなロジックモデルが作られると、これは私、実はほかの分野でもいろいろとやらせていただいているんですけれども、現場の方々の当事者性が高まると申しましょうか、実際にこれまでも非常に高い安全意識を持って、あるいは大変厳しい危機感を持ってやっていらっしゃった方々だというふうにはよく承知しておりますけれども、そこに、国から言われたことをやっているのではなくて、自らいろいろな知恵が出てくるような、現場の知恵を引き出すようなコミュニケーションをこれから是非やっていただけたらうれしいなと思いました。

論点2についてが先で、次に論点1についてなんですけれども、ここまで来た中で、これは大変結構なことだとは思いますが、一方でリスクが起きるときに、リスクは非常に大きなものがどすんとやってきてしまう場合がある。多分こういうものを日々やっていると、ヒヤリ・ハットのような、いわゆるインシデントというようなものがあって、これを皆さん何かしらモニタリングされていらっしゃるんじゃないかなと思うんですが、ここら辺は、ごめんなさい、定量的に把握できているかどうかではなくて、現場でそういったものの知見が蓄積されているかどうかという今の現状についてまず教えていただきたいんですが、いかがですか。

○農村振興局防災課長（石井）　ありがとうございます。直接つながる話かどうかちょっと分かりませんが、東日本大震災のときに、特に水門とか、陸閘と呼んでおりますが、こういう海と接する場所で施設を管理されている方々がかなり被災されたというふうな実情がございます。

そのため、東日本大震災の後に農水省、国交省が連携して有識者委員会を開催して、こういう現場操作員の安全確保をどうするのかということについて、いろいろと検討を進めてまいりました。

それで、現在、我々としては現場操作員の安全確保が第一であるという前提のもと、操作規則をしっかりと定めて、それを定期的にしっかりと訓練を行うということ。また、管理・操作を委託する場合に委託契約をしっかりと定めて、特に操作をされる方の責任の範囲の明確化であるとか、操作・退避ルール of 明確化であるとか、あと補償、こういったものもしっかりと定めていく必要があるということを海岸管理者の方々にお示ししているところでございます。

こういうことは我々の方で取り組ませていただいておりますが、個別の施設管理者のヒヤリ・ハットについて、我々が現場の方から吸い上げて、何らかの形でそれを取りまとめて、紹介・手引のような形にはまだできていないところでございますので、今、委員の方から御提案いただきましたが、正にそういうものが全国の海岸保全区域で施設を管理されている方にとっては非常に有益なことになるのではないかと。単に自分の地域だけでなく、ほかの地域で管理されている方々の経験を共有するというのは非常に重要なことかなと思いますので、そこは今後の取組として検討させていただきたいと思います。

○亀井委員 これは大変よくできているんで、すみません、今かなり高めの玉を投げてしまった感じがあるんですが、前段でおっしゃっていた、東日本大震災のときにかなりの方が被災された。その知見に基づいて、それをきちんと伝えている。これがきちんと現場で知られているかどうかというところは、恐らく知られているんだと思うんですけども、正に我が身を守る話ですから、こういったところは恐らくこのロジックモデルに書かれていても、短期アウトカムの手前にあるんだと思うんです。

ですから、もちろん安全性・効率性が向上することの指標③も大事なんだけれども、この手前のところで現場の人たちがそういうことをよく分かって作業されているかどうかみたいなどころ、これは行政の世界では当たり前だろうという話なんです、それが末梢神経までいくと、あるいは現場レベルまでいくと、現場もなかなか厳しい、人が厳しい、高齢化が進む中で、そういうものが日々やっているから当たり前になっていて、ちょっとうっかりしていたみたいなことにならないように、そういったことを確認されるようなプロセスがあってもいいのかなと思いますし、それができた後で、今お話ししてから、お話を承ってから気が付いたんですけども、今申し上げたようなヒヤリ・ハットであるとか、そういったようなものを受け止めるようなことができてという形でだんだんとそこが拡充されていくと、この事業の更なる信頼性というか、頑健性というか、そういったものが高まってくるんじゃないかなというふうに伺っていて感じたところです。是非そこら辺はしっかり予算も付けてもらって、これはやらなければいけないところだとは思いますので、本当にかげがえのない人員の話にもなる、人の話にもな

と思いますので、そこは是非前向きに検討を頂けたらなというふうに思いました。ありがとうございます。

○蔵谷広報評価課長　ほかの委員の方から御発言ございますか。

中村委員、お願いいたします。

○中村委員　御説明いただきまして、ありがとうございました。私もこちらのロジックモデルと政策効果発現の経路を拝見し、仮説の整理をしっかりといただいているので、PDCAのPの部分をしっかりと可視化・具体化していただいているので、次のチェックからアクトというところがしやすい状況になっているのではないかなというふうに感じているところです。

ちょっとそれますが、EBPMでロジックモデルを作るのは何ぞやみたいな議論がされることもありますけれども、政策の仮説というところをしっかりと可視化して、こういう目論見でこういうふうな経路で政策が課題を解決するんだというところを示すことが重要と考えています。可視化しないことには効果検証もできないと思っていますし、何が間違っていたかというところも確認できないので、こういうふうにしっかりと可視化していただいているというところがロジックモデルの取組の中で有意義なところであったり、重要なところではないかと思っています。

これはちょっと高めなのかもしれないんですけども、仮説を整理していただいていると、次の取組というのが、ではそこに基づいてどうやってマネジメントをされるんだろうかであったり、どうやって改善に取り組まれていくのかというところが重要なポイントになるのかと思っています。

論点に挙がっておりますところは、アウトカム（長期）のところ、そもそも何のために行うのかというところが整理されていて、アウトカム（短期）で事業としてどんな成果を出すのかというところが整理いただいているので、それぞれの判断基準というものが、アウトカム（長期）につながるようなアウトカム（短期）がより重要であるというところの判断基準があるなどもきれいに整理いただいているのではないかなど考えております。

ただ、私なりにそういうふうに解釈をさせていただいているんですけども、これを皆様で作ってこういうふうにきれいに可視化いただく中で、どういうふうに今後マネジメントとかに使っていいかなみたいな想定等もあれば教えていただいてもよろしいでしょうか。

○農村振興局防災課長（石井）　ありがとうございます。今、委員がお話いただいた点、非常に重要なことと我々も受け止めていまして、何のためにこれを作るのかと、あとはどうやって作るのか、これをどうやって活用していくのかというところで、今の委員のお話は非常に重

要なポイントだなと思っております。

おっしゃるように、これは仮説でありまして、アウトカムのところ指標を置いておりますが、ここが一つ確認事項であります。

また、長期のアウトカムのところも我々、直轄事業、また補助事業をやっておりますが、長期のアウトカムの部分というのが、基本的に海岸事業をやっておりますと、いろいろな災害が発生したときに、よりダメージを抑えられるかどうかというところを検証していくこととなりますが、そういった事業を完了した地区において、何らかの災害、高潮であるとか地震の津波であるとか、こういったものについてしっかりと事業の効果が発揮されて、被害を最小限に抑えられたかどうか、そこはしっかりと見ていく必要があると思っております。

なかなか災害が発生するのは事前に予見できませんので、今後あてははほしくないですけども、そういう災害が発生した際に、果たして我々がこれまで取り組んできた海岸事業というのがしっかりと機能を発揮したかどうかということは、その都度確認してまいりたいと考えております。

それで足りない部分もあれば、そこを仮説であるロジックモデルの見直しの方にも生かしていった、より良いものにしていきたいと考えております。

○中村委員 丁寧に御説明いただき、ありがとうございます。私も全くそのとおりでな思っているのと、ただ一方でアウトカム（長期）が100%達成するというのも、それはあり得ないことだと私は思っています、災害による被害をゼロにするためのインフラ整備という、とんでもないものをしなければいけない話だと思っていますので、ただ、それでもアウトカム長期に、どれだけ資するのかというところをモニタリングや把握していただいた上で、ではつながらなかったら、どう変えなければいけないんだろうかというところで仮説の見直しをしていただくというのがすごく大事だなと思いました。

あとアウトカム（長期）、これはあえて指標は要らないんだと思っています、指標を設定すると定期的に報告しなきゃいけないと思うんですけども、皆様の方でこれが大事な要素なんだというところを可視化していただいているだけで、ほかの見る方が、「そうか、では守られている地域の営農状況はどういうところなんだろう」という議論をしたいときに、「まずこれを見ればいいんだ」というところの道しるべができていう意味でも、こういう整理の仕方をしていただくというのは、すごく重要ではないかなと思った次第です。

以上になります。最後はコメントです。

○藏谷広報評価課長 ありがとうございます。

川澤委員、お願いします。

○川澤委員 御説明どうもありがとうございました。

論点1の挙げてくださっていた既存施設の有効活用や長寿命化のロジックモデルの中での表現ということなんですけれども、確かに今ロジックモデル、1ページのを拝見してまして、長寿命化の計画の策定、新技術の活用推進であるとか、そういった形で新しい技術を活用して、どういうふうに安全を守りつつも長寿命化で活用していくかというところに取り組んでいたいていると思うんですが、アウトプットで機能低下を防止というところで、もう少し定量的に示せるものもあるのではないかなと。実際、ほかのアウトプットよりも具体的に組み込まれている既存施設でどのくらいライフサイクルコストが低減したかであるとか、長寿命化、経過年数を延長できたかというところは農水省さんとして把握しやすい部分ではないかというふうに思いますので、その辺りというのはいかがでしょうか。

○農村振興局防災課長補佐（鈴木） 今、農水省農村振興局の方では、長寿命化計画につきましては、農地海岸について、平成30年度までに全ての地区海岸で策定するように海岸管理者を促してまいりました。現状で全体、約1,700ぐらいの地区海岸がございしますが、そのうち1,000以上の地区海岸において策定済みとなっておりまして、そのような長寿命化計画を策定した数ではお示しすることができるかと思っております。

○川澤委員 分かりました。ありがとうございます。無理な指標を設定するという意味ではなくて、説明し得るものは説明していった方がいいだろうということ。今伺いいただけても1,700地区のうち1,000以上が策定が進んでいるというのは一つの取組の成果だというふうに思いますが、実際にその計画が実行されて長寿命化が達成されているかということも、また次の段階の成果だというふうに思いますので、そこは進捗に応じて対外的に説明していく指標を見直しつつ、積極的にアピールしていった方がいいのではないかなというふうに思いました。

もう一点なんですけれども、外部影響の要因ということで、気候変動の話をスライドでも28ページにお示しくださっていると思うんですが、この気候変動の影響で、そもそもアクティビティに関わるような整備すべき地域の増加であるとか、そういった出発点の変更がどのくらいある外部要因なのかというところを、ちょっと抽象的な質問になってしまうかもしれないんですけれども、伺いたいします。

といいますのも、恐らく目標がそれぞれ、100%なり64%に設定されていると思うんですが、そもそもの気候変動の影響によって、これまで積み上げていくのではなく、減っていく可能性も当然あるんだと思うんです、地区の変更とかがあれば。その辺りの外部、今影響要因として

整理してくださっている気候変動の影響というのはどのぐらいの大きさなのかということをちょっと伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○農村振興局防災課長（石井） ありがとうございます。気候変動につきましては、一つは台風とかが来て気圧が下がって海水位が上がるということと、風が強くなって海岸への吹き寄せ量の増加という、この二つが要素としてございまして、もし気候変動が2100年までに2度上昇した場合には、具体的には29センチから59センチの幅で水位が上昇すると予測されております。我々としては、将来、そうなっていくということを前提にして、これから海岸の堤防高を高くしていく必要があるということで、全国の相当のエリアにおいて、これは影響があるということとでございます。

そういった意味で、今、海岸堤防高を高める、それで高潮なり津波なりに対応していくということをやっておりますが、この新しい気候変動を取り込んだ形で、また改めて整備を考えていかなければならないということとでございます。

○川澤委員 分かりました。ありがとうございます。何年ぐらいを目途に、どう今の段階で取り組むかというところは正に議論がされていらっしゃるんだと思いますけれども、そういった今外部影響要因ということで整理してくださって、これ自体はこういう整理でいいんだろうと思うのですが、今御説明してくださったように、恐らく数十年の単位で見ればかなりの取組の変更が考えられると思いますので、そこは実際に議論が進んでいる状況によって、それをアクティビティの中にきちんと埋め込んでいくとか、検討の状況を埋め込んでいくとか、何らか外部というよりはもう本当に内生的な一つの取組として取り込んでいった方がいいんじゃないかと思いました。

以上です。

○藏谷広報評価課長 ありがとうございます。

○藤栄委員 それでは、私からも発言させていただいてよろしいでしょうか。

○藏谷広報評価課長 藤栄先生、お願いいたします。

○藤栄委員 ロジックモデルはしっかり作られていますので、先ほどまでの委員の先生方のコメントどおりなんですけれども、私として気になったのは、長期アウトカムのところ为抓手整理されているのですが、こうしたいろいろな施設の整備は、結果的に長期アウトカムにある、例えば農家の経営の維持であったり、コミュニティの維持とか、社会経済活動の維持というところに長期的な目標があるので、そういった意味では中村先生とは違った観点になるのかもしれないですけれども、何かしら指標とか目星となるものを設定されるというのも、もちろ

ん、いろいろなほかのファクターが入ってきて効果測定になりづらいというのは理解できますが、含める必要もあるんじゃないかなと考えました。

例えば、事業を実施されたところとされていないところで比較をすると、少し計量経済的な手法を使えば、もう少し厳密な比較もできますので、そういった視点で指標を長期的なアウトカムについて設定をされてもいいのかなと。

もう一点は、指標の①から④を拝見すると、対策の実施率とか耐震化率、整備率ということで、施設の整備とか何をやったのかということに注目したものばかりが並んでいますが、例えば維持管理コストが縮減されるとか、コストの縮減に対する指標の設定についても、なかなか難しいものがあるのかもしれませんが、お考えになってもいいかなと思いました。

以上です。

○藏谷広報評価課長 何かございますか。

○農村振興局防災課長（石井） ありがとうございます。まず、最初の長期アウトカムのところへの指標が必要ではないかということでございます。

我々、災害を未然に防止するということでございまして、災害がいつ、どのような形で発生するか分からないのですが、今後あつてはほしくないのですけれども、もし災害が発生した際に、整備をした地域と、まだ整備が行われていない地域の間での、こういった優良農地の維持であるとか、農家経営の維持であるとか、あるいはコミュニティの維持であるとか、こういったものの差異というのは検証していく必要があるのかなというふうに考えております。指標をここに設定するかどうかは、今後の検討課題とさせていただければと思います。

また、短期アウトカム、青い部分の指標で四つ設定しておりますが、これは海岸4省庁で共有して、共通して掲げているものでありまして、背景としては社会資本整備重点計画の中で置いている指標をそのままロジックモデルでも活用させていただいているということでございます。その指標が、こちら左下の方の指標の一覧にございますが、堤防高の話であるとか、耐震化の話でありますとか、こういったものを設定しているということでございます。

それ以外の、今お話しいただいた維持管理コストなどの指標については、こちらについても今後の検討課題とさせていただければと思います。

○藏谷広報評価課長 あと5分程度で質疑、議論の終了時間となりますが、コメントをまだ投稿いただいていない委員におかれましては、早めをお願いいたします。

亀井委員、お願いします。

○亀井委員 さっき藤栄先生から話があったんですが、多分長期アウトカムで、整備した所と

していない所で差がどうかとやっちゃうと、これはなかなかクリティカルな状況だからできないじゃないですか。むしろ、例えば新しい、何か皆さんが考えていらっしゃる、新技術で何か迅速化できるとか、人手をできるだけ少なく効率化できるだとか、プロセスを見直してみたらすごくうまくできるみたいな新しい手法が出てきたときに、実際に現場で例えば習熟していてもできる人が増えたとか、まず何かそっち側の手前の指標ではかってみたらいいんじゃないかなと思います。そうでないと、長期アウトカムで、やった所とやっていない所の比較って、そんなことを言われても、災害は起きていませんからという話になっちゃうし、そこでやっぱり考えが止まっちゃうんです。だけど、いろいろと技術は変わってきているし、あるいは自動化とか、今だとDXみたいなものが入ってきたりだとか、一方で、でもかなりフィジカルに動くところだから、どうしても人手は要るし、誰かがボタンを押さなきゃいけないんだけどもみたいな話があるんだと思うんですけれども、何かそういう中で水位の変化に応じて、それを自動的にモニタリングできるものを入れたら、こんなに早くできたとかみたいな形の、何かそっち側の手前の比較ができると、これは有効だからこの投資はより進めようとか、こういう研修をより進めようという、多分皆さんの次のアクティビティにつながるはずで、そういう情報収集を積極的にされていったらいいんじゃないかなというふうに思いました。

多分、藤栄先生の趣旨もそういう趣旨なんじゃないかなと私は理解しています。

○藤栄委員 コメント、どうもありがとうございました。今の亀井委員のコメントが、私がお伝えしたかったことを反映していただいていると思います。ありがとうございます。

○蔵谷広報評価課長 コメントの方がそろそろ取りまとまったようですので、委員の皆様から特に追加でなければ、ここら辺で質疑、議論を終了したいと思います。

委員の皆様におかれましては、端末上のT e a m sの画面から取りまとめコメント案を御覧ください。準備できましたでしょうか。

それでは、取りまとめコメント案につきまして、中村委員より発表いただきます。よろしくお願いします。

○中村委員 取りまとめコメント案を発表させていただきます。

まず論点①、海岸事業において、既存の海岸保全施設の点検・診断結果に基づいて、施設の補修・補強の可否を判断し、既存施設の有効活用や長寿命化を図っていることをロジックモデルの中で表現できないかについてです。

委員の先生方からのコメントを読み上げます。

ロジックモデルの中で既存施設の有効活用や長寿命化を図っていることをある程度表現でき

ていると考えるが、論点2と関わるが、指標に十分反映されているようには思えなかった。

次のコメントです。アウトカム（長期）でアウトカム（短期）の結果として目指す成果が整理されており、施設の補修・補強の可否を判断するための基準は一定程度整理されているものと認識している。また、長寿命化も維持管理コストの縮減という視点で整理されているものと認識している。目指す状態などをより具体化する場合には適宜具体化等を行い、ロジックモデルに可能な範囲で反映することが考えられる。

施設整備事業ではあるものの、現状や課題をよく踏まえ、現場における日々のオペレーションの状況把握などもアウトカムに盛り込まれており、物と人の組合せによって実現していく政策効果発現の経路が適切に表現されている。

特に詳細なロジックモデルについては、一連の検討を通じて、担当部局における改めでの気付きや学びもあったと聞く。これも大いに評価したい。

アクティビティの長寿命化計画の策定については、長寿命化計画の策定地域割合や、いずれはライフサイクルコストの低減地域割合など、何らかの指標化も検討の余地があるのではないかな。

次に論点2、海岸事業のロジックモデルを整理したことで、どのような成果が得られたのか。また、得られた成果について、今後、どのように事業に生かしていくのかについてです。

委員の先生からのコメントです。

整備率や対策実施率が指標として用いられているが、ただ実施した、実施していないという指標だけでなく、本事業のアウトプットや短期アウトカムとされる省力化・効率化や施設の更新・維持管理コストの縮減を反映した指標の採用を検討することも考えられるだろう。

例えば海岸保全施設のライフサイクルコストの縮減効果・長寿命化による耐用年数の延びなどを用いることはできないだろうか。

次です。ロジックモデルの整理はPDCAのPの整理であり、政策がどのように政策課題の解決につながるのか、目論見を丁寧に整理するものであり、その整理が進んでいる状態と認識している。目論見が十分に進んでいるため、今後の改善方策の検討やマネジメントの在り方の検討などができる状態である。

見える化は、見える形で仮説を整理することの難易度は高いため、整理していること自体が重要な点である。

過去のリスク事例を踏まえた対応、原則の提示、ガイドライン等も大いに評価できる。現場における周知及び運用状況、さらに今後はリスクの兆候を見いだし、必要な改善を促すきつ

けとなる現場レベルのインシデントの把握が進められれば、更なる改善も見込めるのではない
か。

ここまで丁寧に検討・実践されているので、次なるチャレンジとして検討されたい。

最後に、その他です。

指標④について、目標値が100%であるのに対して、成果実績は87%のまま推移している。
最終目標年度に100%を達成する見込みはあるのだろうか。仮に目標値が非現実的な値となっ
ているのであれば、目標値の修正が必要だろう。

長期アウトカムについては、事業実施地の農業経営の継続率などの成果指標を採用すること
も考えられるのではないかと。共通的な様式への落とし込みまでの経緯も含めて、政策の仮説、
目論見を整理するという取組の参考になる取組の一つと考えられる。

こうした優れた取組は省全体にも共有されたい。外部要因として整理している気候変動につ
いては、気候変動の影響やそれに関わる検討の熟度に応じてアクティビティの一つとして明示
的に整理していくことも考えられるのではないかとこの意見がありました。

委員の先生方は、こちらの御意見でよろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、御意見がなければ、そのようにさせていただきます。農
林水産省は、本件の取りまとめ結果を尊重の上、事業内容の改善に向けた検討をお願いいたし
ます。

それでは、進行を事務局に戻させていただきます。

○蔵谷広報評価課長 中村委員、取りまとめありがとうございました。

それでは、以上で本事業につきましての議論を終了したいと思います。次の事業、次のコマ
につきましては約15分後の14時から4コマ目、「環境保全型農業直接支払交付金」ということ
でお願いしたいと思います。それでは皆さん、ありがとうございました。